錦江に生きる

じゅうさんにん目

山下（やました） 敏郎（としろう）さん（馬場自治会）

▲12キロのダンベルで筋トレに励む敏郎さん

▼思いつき語録を独学で始めた書に残す

このコーナーでは、町内でこれから根を張っていこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。
第13回目は、馬場自治会の山下敏郎さんです。

50年走り続けているという山下敏郎さんの年齢は66歳。一般的には「おじいちゃん」と呼ばれる部類に入るのだが、敏郎さんに対してはこの言葉は当てはまらない。とにかく元気。心も体もとにかく若い。でも、愛称は「ジィ」。敏郎さんが「趣味の部屋」と呼んでいる書斎には40キロ超のベンチプレスに12キロのダンベル、8キロの鉄アレイが転がる。締まった体が毎日の筋トレを容易に連想させる。

前述からも分かるように敏郎さんの趣味はスポーツ全般。だが最近はスポーツ以外にも詩や書、敏郎さん独自の感性を活かした語録などの創作活動にも力を入れ、文芸社のコンテストで入選経験もある。

そんな元気いっぱいの敏郎さんも数年前に大病を患い大きな手術を経験している。完治はしたがそれ以来、人生観が少し変わったと言う。何か人の為になれればとの想いが強くなり、ふれあい学級などのお年寄りとの交流（やはり敏郎さん自身はおじいちゃんと言う感覚はないらしい）を始めた。そこで趣味を活かした詩や講話、カラオケなどを提供している。もっとも敏郎さんに提供しているという感覚はなく、詩や語録などは自分への戒めとし、交流は自分の楽しみだと感じている。

好きな言葉は「会釈一得」。造語だが、会釈一つで得をするという意味で、敏郎さんは笑顔が一番、一日一回腹の底から笑えればすばらしい人生だと言う。更に、挨拶が出来なくなった人が多いと苦言も呈する。挨拶一つですばらしい人生になるのにと。

敏郎さんに、錦江町に対して一言お願いしたところ、河川や道路など荒れた自然ではなく、すがすがしい田舎・自然を残していきたい。また、同年代の人たちの元気がまだまだ足りない。50～70歳代が若い頃に返って活き活きすれば町にきっと活気が出てくる、まだまだ老け込む歳じゃないと言う。

活き活きとした表情で錦江町への想いを語るジィはこれからも走り続ける。

錦江町

思ひ出写真館

写真からでも、当時の男性のたくましさが伝わってきます。
間違いなく「頼れる男たち」だったことでしょう。

約70数年前、狩りに成功した時の一枚（橋ノ口集落）

▶写真のご協力をお願いします。◀

「錦江町思ひ出写真館」に掲載する写真を募集します。

撮影時期・場所・状況等を付けて、役場企画課へ持ち込むか郵送ください。

お借りした写真は責任を持ってお返しします。